

洋夷記

和書

和書二百廿二號

和書門	四二六	函號	類
	一四	架	
	三六	冊	

內閣文庫	和書
四二六	函號
一四	架
三六	冊

內閣文庫	番號	和 42614
	冊數	36 (11)
	函號	185 182



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





夷類頻來乞求通商其情狡黠固不可量因茲邊海

防禦雖盡警戒

宸襟所不綏庶幾以

神明冥助不污

神州

不損人民國體安穩天下泰平

寶祚悠久武運

延長之御祈一社一同可抽丹誠可令下知于下總

國香取社給者依

天氣言上如件



十一月廿三日

中納言中將殿

權右中辨長順奉

香取社祝詞

掛卷母惶伎東能香取能地能下磐根尔大宮柱太敷立高
天原尔千木高知互食國天下能大伎鎮止大坐万須經津
主大神又能御名波伊波比主命相殿尔坐武雷命天兒
屋命比賣神四柱能皇神等能宇豆能廣前与利始互枝
宮枝社尔鎮万利坐八十神等能大前尔神主称宜祝等
八十人我弱肩尔太手次取懸皇御孫命能宇豆能大幣
帛平安幣帛能足幣帛止捧持由麻波理淨麻波理都之
庭雀字煩煩麻理居互廣久厚久稱言竟奉良久高天
原尔事始給比志天皇我親神魯岐神魯美能命以互豊

葦原能水穗國波吾皇子能天地日月与共尔遠久長久知
食在年食國曾止詔給比豆事依志給比志時尔經津主大
神武雷命与二柱天能壁立極美國能退立限巡回坐豆荒
振神等乎婆神問志尔問志給比神掃尔掃給比豆岩根本
根立草能搔葉母言止豆天乃岩坐離礼天乃八重雲乎
伊豆乃予别尔予别豆皇御孫命波天降百之哉茲大哉
功績尔依豆御位波高使極美御封波所廣久奉良志米
給比豆大宮乎婆廿年尔一度造改米哥舞能人乎在倍尔
奉良志米給比豆那母嚴久重久祀良志米給比豆留皇神等母
御世二二能天皇能如此仕奉利之夏乎婆思志忘礼不給

又國能難美乎婆爭泥外事尔視給布倍哉爰尔百敷平安
能宮尔現津御神止大八洲國所知食今能天皇能詔給
比之入此頃遠久遙女使蠻貊共里尔長乎置國尔箇乎立
乎船乘事乎習比火乎用為留器乎造豆下尔黑使心乎抱
哉上尔言能云成都尔畏母大御國乎凌使辱志米武止為
止奈母神随聞食豆常能大御心不安奈母大坐五煩武士
能守衛波弛備急留夏無久公民能心母二無久夜昼尔仕
奉礼止母尚皇神等能御稜威尔依豆五月蠅奈煩夷賊共
乎遠久遙女久逐退女豆大御國尔雖言奈政心不令有天
日嗣高御坐能大御業乎遠久長久傳坐大政尔淺落留

事無久、天下能公民安久樂美采年夏平、大前尔懇尔申世
登、宣給比、奉給布、半豆能大幣帛平、大宮司大中臣朝臣
保房、大称、宣大中臣朝臣實蕃乎始互、神官八十人奉互、恐
慶互比、懼畏美、項尔載持、忌麻波利、津麻波利、都、兹年
能十二月能廿日、五理一日、与利、廿日、五理七日、能日能夕
日能降尔至、留万泥乎、吉日止定米互、仰給、留命人之能麻尔万、
大御祭仕奉、留止之互、稱言竟奉、良久、奉、留御酒波、甕上高
知、甕腹滿雙互、御饌波、荒稻、和稻、八百稻、干稻、登取備、山
尔、往者、波、毛能廉物、毛能和物、大野能原尔生、留物波、其菜、
幸菜、青海原尔住者、波、鱈能廣物、鱈能狭物、奥津藻葉、边

者
大
字

津藻葉尔至、留万泥、干坐能、置坐尔、置足、波志互、奉、留天皇
我字、豆能大幣帛乎、皇神等能大御心尔、安幣帛能足幣
帛止、平气久安、良气久、闻食、相半豆乃比、安奈那比、賜比互、
皇神等能、神世尔、荒振神乎、神逐尔、逐給比之、故事、能麻
尔、二、神、日本磐余彦天皇能、御軍乎、御釵尔、御魂幸比互、助
給比之、故事、能麻尔、二、息長帶姬命、能御舟乎、護互、栲衾
新羅國乎、夏向坐之、故事、能麻尔、二、弘安尔、蒙古能、仇襲来
礼星之時尔、神御軍乎、起給互、御殿能、内尔物、能響、闻衣之、故
夏能麻尔、二、和御靈波、靜母理坐、荒御魂、波、天翔互、荒備
踈備来、年夏、鞞我、船、波、如何尔、堅、久、止、母、火術、波、如何尔、巧

事

奈理岳 沫雪 奈頂 歌放散志 東燭能打消安 我如久 鎮給
 比豆 今与利後 諸能夷賊共 黑伎心 平校事無久 負気無情
 平起事無久 八百万能神能本 津御國 登阿留 大御國乎 礼
 備敬比 蕃屏國能列 尔仕奉利立 天日嗣能大御位 波常磐
 尔堅石 尔勤久 莫無久 親王諸王百官人等 武士能八十伴男 公
 民 尔至 留百傳 夜能守日 能護尔 守幸 波比給立 禍神能禍事
 不令在天皇 我朝廷尔 茂之夜久 波敵 能如久 仕奉利榮 敵志
 米給止 大宮司 大中臣朝臣保房 大称 皇大中臣朝臣實蕃
 平始立 神官等 八千人 鹿自物 膝折伏 鵝事物 頸根突 枝
 畏美 畏美母 白願

廿一月十四日 向部伊賀者殿以後

六月廿日

大森村所坊一平 幸一月廿九日 諸同坊同覽
 一 坊同如後 伊賀者 一 坊同如後 伊賀者
 一 坊同如後 伊賀者 一 坊同如後 伊賀者
 一 坊同如後 伊賀者 一 坊同如後 伊賀者
 一 坊同如後 伊賀者 一 坊同如後 伊賀者
 一 坊同如後 伊賀者 一 坊同如後 伊賀者

十月

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

論書

云子年西苑の多き程にけり
一書に書きたるは、
此類に細い玉其不万ふり下
細い玉も、
新必船渡来、

江原守の御書

公儀入用も若干と申上り申上り

先般より申上り申上り御書成候事申上り

此等申上り申上り御書成候事申上り

申上り申上り御書成候事申上り

申上り申上り御書成候事申上り

申上り申上り御書成候事申上り

申上り申上り御書成候事申上り

申上り申上り御書成候事申上り

申上り申上り御書成候事申上り

申上り申上り御書成候事申上り

申上り申上り御書成候事申上り

ゆき 中世の平の島尻の塔

遊の遊也水更の具所を女へ古の白痴

汗の血不所へ巨抽と名物と云事終る

法不の神と云事と云事

と色の中世の平の島尻の塔

其の力に牙ふと云事と云事

心一層と云事と云事

遊の遊也水更の具所を女へ古の白痴

ゆき 中世の平の島尻の塔

遊の遊也水更の具所を女へ古の白痴

ゆき 中世の平の島尻の塔

ゆき 中世の平の島尻の塔

... 女... 氏...
... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏...

... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏...

一際

中未書算所とあり女心ハ康少と云
ふに此は成場念ハて之を其の方より
之れ之物を記しハて一入を特記して
七の貫

と云ふに一は運の運合と云ふ成場力也

其の如きは此之を記して 一入の貫也

此の如きは一貫利引と云ふは一入の貫也

一入の貫也と云ふは一入の貫也

一入の貫也と云ふは一入の貫也

一入の貫也と云ふは一入の貫也

一入の貫也と云ふは一入の貫也

踏
多スル

踏

少正御前御宗仲之御子孫之系也
少正御前御宗仲

一 与所海岸防衛宗仲御子孫之系也

宗子之系 宗仲御子孫之系也

宗仲御子孫之系也

宗仲御子孫之系也

宗仲御子孫之系也

宗仲御子孫之系也

宗仲御子孫之系也

宗仲御子孫之系也

宗仲御子孫之系也

宗仲御子孫之系也

此儀の事とてそのほかに西^標の如き事

との仲は息らねとて事方々往くる事

条^標の事とてそのほかに事方々往くる事

事方々往くる事

一之儀の事とてそのほかに事方々往くる事

事方々往くる事

事方々往くる事

事方々往くる事

事方々往くる事

事方々往くる事

事方々往くる事

事方々往くる事

新に付言一原之りて言ふ、少少初言、
之付録之りて言ふ

一原之りて言ふ

公儀之りて言ふ、少少初言、
為之及、少少初言、少少初言、
之、少少初言、少少初言、
少少初言、少少初言、少少初言、

少少初言、少少初言、少少初言、
少少初言、少少初言、少少初言、
少少初言、少少初言、少少初言、

少少初言、少少初言、少少初言、
少少初言、少少初言、少少初言、
少少初言、少少初言、少少初言、

仲あ忠と下子鞍掛のふり付は
下あ忠親守の女は皆に被はし
由縁は所由一^あふり付は進進

江一朝一^あふり付は進進
新^あふり付は進進

今日あ忠より由縁は進進
由縁は進進
あ忠は進進
あ忠は進進

あ忠は進進
あ忠は進進

書物列考のしし連たし書物とるんし中しんし

惟茲東邦。朕之肱股。嗣子不德。賊盜踉蹌全敬喪

師。陸塞辱命。天事七難命送函書。之到日慙

副遵命。

一右書面し中東邦と申者何國といふと身は北北京と朝

朝と東邦と相習り及中身の世にけり

一右書面し何年と命ししは元禄解らと事又身は

し中身何年何人何の世にけり

り又中身何年何人何の世にけり

り又中身何年何人何の世にけり

り又中身何年何人何の世にけり

り又中身何年何人何の世にけり

り又中身何年何人何の世にけり

一書面し全敬陸塞ら中文字し身は身は

一人をとりて下すの由り也

一曰天守七絶を平定する事し如天の威をうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ

一松岳をまきつらゆし如天の威をうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ

一徳を懐きし巻説をうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ
事徳ありしをうけりつらゆ

五十月

月海の巻場は地少き刀水成り水別是別流石
形度は古家浦子村之古原船之古言の船較より
運送持取兼多き方は命申之者凡古原船
舟高多し可なり 仲之船是早し可なり船之古原
船之古原 様之古原 波舟之古原 古原之古原
古原之古原 古原之古原 古原之古原 古原之古原

舟

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 舟 and 月.

貨法考五條ノ様ニ事
右色正方物カクニ事
至色形持ルルノ事

十月十日

右色正方物カクニ事
至色形持ルルノ事

十

後

隣地懸議

本邦奇ニ一國ガ(備)海(海)事ヲ(本)事ニ
トシテ(海)事カ(本)事ニ著(一)ノ(海)事ヲ始メ
海國事ノ(海)事ニ(海)事ニ(海)事ニ(海)事ニ
海國事ノ(海)事ニ(海)事ニ(海)事ニ(海)事ニ
海國事ノ(海)事ニ(海)事ニ(海)事ニ(海)事ニ
海國事ノ(海)事ニ(海)事ニ(海)事ニ(海)事ニ
海國事ノ(海)事ニ(海)事ニ(海)事ニ(海)事ニ
海國事ノ(海)事ニ(海)事ニ(海)事ニ(海)事ニ

のひしつて天下首志のし海は蛇を失る蛇しつて
る琴の音傳はしを御して大島しつて後漢書を書しつて
き蛇るま今茲夢せし月心勇の軍艦浦をよまうて明り法
傳はる如あし目録書はしつてさしつて(白濁)しつて時
しつてしつてましつてしつてしつてしつてしつてしつて
清濁のあし系譜しつてしつてしつてしつてしつてしつて
た海を監しつては本の寫しつてしつてしつてしつてしつて
人(白濁)しつてしつてしつてしつてしつてしつてしつて
大島しつてしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつて
るしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつて
たむしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつて
善法のしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつて
てしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつて
たむしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつて
蘭しつてしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつて
あしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつて
ふを治してしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつて
國を治してしつてしつてしつてしつてしつてしつてしつて

この平氏の説を執りて常事にして其の是を新
大敵との事おもて候へども是れ一もの二言其の(一)言
候き(二)言(三)言(四)言(五)言(六)言(七)言(八)言(九)言(十)言
一(一)言(二)言(三)言(四)言(五)言(六)言(七)言(八)言(九)言(十)言
候の(一)言(二)言(三)言(四)言(五)言(六)言(七)言(八)言(九)言(十)言
一(一)言(二)言(三)言(四)言(五)言(六)言(七)言(八)言(九)言(十)言
て(一)言(二)言(三)言(四)言(五)言(六)言(七)言(八)言(九)言(十)言
一(一)言(二)言(三)言(四)言(五)言(六)言(七)言(八)言(九)言(十)言
大敵巨類(一)言(二)言(三)言(四)言(五)言(六)言(七)言(八)言(九)言(十)言
一(一)言(二)言(三)言(四)言(五)言(六)言(七)言(八)言(九)言(十)言
外身(一)言(二)言(三)言(四)言(五)言(六)言(七)言(八)言(九)言(十)言
一(一)言(二)言(三)言(四)言(五)言(六)言(七)言(八)言(九)言(十)言
一(一)言(二)言(三)言(四)言(五)言(六)言(七)言(八)言(九)言(十)言
一(一)言(二)言(三)言(四)言(五)言(六)言(七)言(八)言(九)言(十)言
一(一)言(二)言(三)言(四)言(五)言(六)言(七)言(八)言(九)言(十)言
一(一)言(二)言(三)言(四)言(五)言(六)言(七)言(八)言(九)言(十)言
一(一)言(二)言(三)言(四)言(五)言(六)言(七)言(八)言(九)言(十)言

櫻く命脈を結ぶ大なる高麗館の...
西洋の...
...
...

百済の國地...
...
... 世の群侯百障より海を...

北極光の...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

Handwritten text in a cursive Japanese script (Sōsho) on two pages of an open book. The pages are aged and show some staining. The text is written vertically from right to left. The first page (right side) contains approximately 15 lines of text, and the second page (left side) contains approximately 15 lines of text. The handwriting is fluid and characteristic of the Edo or Meiji periods.

明勞堪論人或謂結怒於虜則雙雙我愈深此懦
 夫不識虜情之言也虜大羊耳震之以威則懼
 而走示之以怯則驕而至昔呼韓之朝不在於
 金縵和親之日而在於衛霍分道之全瓊岸之
 迫不在於韓岳恢復之時於史賈南甯之後故
 嘗謂行春秋所貴也而不始終以和誤國由宗
 不知虜情耳啓蒙別也蒙我不起蒙別恒蒙今
 又不以起蒙永已蒙以蒙永已蒙故蒙卒不可
 也ト云タル誠ニ明確至當之論也在上者宜
 眼膺スヘシ

此の事我朝の危難を語り一時的苟安の事を圖りて彼
 等の心を併せしめしむるは凌侮を畏服して隣を我に
 負せしむるに非ざらんは此の蒙の如くもあらずして親交の
 深きもの及び彼等の毒を流して利をとりて我民
 の心を併せしめしむるは凌侮を畏服して隣を我に
 負せしむるに非ざらんは此の蒙の如くもあらずして親交の
 深きもの及び彼等の毒を流して利をとりて我民
 の心を併せしめしむるは凌侮を畏服して隣を我に
 負せしむるに非ざらんは此の蒙の如くもあらずして親交の
 深きもの及び彼等の毒を流して利をとりて我民

[Faint, illegible handwriting, likely bleed-through from the reverse side]

河津停船より及ぶる事

近來田島船行の正地は河津に在り候事其節は
先づ河津に在り候事

河津河津の事候事其節は河津に在り候事
河津の事候事其節は河津に在り候事
河津の事候事其節は河津に在り候事
河津の事候事其節は河津に在り候事

尚友先由如浦等處遊歷其地神聖第一曰水

通流如之流其年近航流其地令人致疑

公卿之流也其地通流其地海神之神也如流

形體之流也其地通流其地海神之神也如流

或之流也其地通流其地海神之神也如流

一也其地通流其地海神之神也如流

一也其地通流其地海神之神也如流

所學國史と其後の事は河名在述河也抑又

名と未代の事は河名在述河也抑又

名と未代の事は河名在述河也抑又

名と未代の事は河名在述河也抑又

名と未代の事は河名在述河也抑又

名と未代の事は河名在述河也抑又

名と未代の事は河名在述河也抑又

おら御仕御法りのすゝめらん... 國語の...
...の... 海國の...
...の... 國語の...
...の... 海國の...
...の... 國語の...
...の... 海國の...
...の... 國語の...
...の... 海國の...
...の... 國語の...
...の... 海國の...

も右ある場合原あるは... 其...
...の... 其...
...の... 其...
...の... 其...
...の... 其...
...の... 其...
...の... 其...
...の... 其...
...の... 其...
...の... 其...

四十一頁

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

御先代様
御先代様

御先代様
御先代様

御先代様
御先代様

御先代様
御先代様

御先代様
御先代様

御先代様
御先代様

御先代様
御先代様

御先代様
御先代様

御先代様
御先代様

御先代様
御先代様

御先代様
御先代様

御先代様
御先代様

世三月廿日校野海前の居り

昔時海前の一草一木如履日如帆之言其意の
母は三毛織の言一如之障也。小圃昔月廿日海前
二付大津豊國の水野海前の一傍者昔就知海前
一昔中一昔小圃校野海前又日昔者昔就知海前
一昔中一昔小圃校野海前又日昔者昔就知海前

三月二日 五節日附 松浦吉成

下渡

今波月海は巻場は多々流す不川内
字心山人少敏山衆去古取場或海岸
去折運は美摺之是注込は混雜在
之是注込は美摺之是注込は混雜在
重なる注込は美摺之是注込は混雜在
横糸の東海有張水門右境内注込は美摺之

標估其道以建札定田可目其建
田之可目由石以建之其可目及
并分其地多者可中其地極其平也
石色其地極其平也其地極其平也

上信長屋方為一隊中其地

意田可札之件口建札

意田可札之件口建札
意田可札之件口建札
意田可札之件口建札
意田可札之件口建札
意田可札之件口建札
意田可札之件口建札
意田可札之件口建札
意田可札之件口建札
意田可札之件口建札
意田可札之件口建札

小田可札之件口建札

正徳十三年七月廿一日
...
...

二十七日

...
...

...

支配所...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

肥前守の御書
諸君の御書
右様御書
但右様御書

西十二月十日

- 一 使者 ブーナーニン
- 一 船長 ヨハン
- 一 船官 ボツシエツト
- 一 船医 ゴンシヤロン
- 右と汁七葉料理
- 右と汁七葉料理
- 右と汁七葉料理

一 海村河村 日居人

一 音楽者 指人

一 右帝版者 深庭と云

バツテイラ九渡

一 水支 百人

是は上階の枝

右に通に滞おる

世十二月十五日申 杉のふりかや 杖と云事云

世十二月 行西河段所 魚田 西傳言 以下 以唯也 以對信
音一 苗川 増左 通

筒井 彦

以指衣指也
凡乃鳥帽也

川 崎 彦

苗川 尾 彦

大枝

之當子

大澤 彦

水野 彦

御傳者

御祖氏

布衣

御母氏

素袍

支配書

中書

外書

國書院之水野廣海書院上之御書

支配書

御書

御書

御書

書院之水野廣海書院上之御書

支配書

御書

御書

口對圖部上之御書

御書

御書

御影圖所記の御影

御影の御影

御影の御影

御影の御影

一 御影の御影

一 御影の御影

一 御影の御影

一 御影の御影

一 御影の御影

一 御影の御影

一 御影の御影

一 御影の御影

御影

御影の御影

御影の御影

御影院

御影の御影

御影の御影

御影の御影

御影の御影

通旨通傳旨 三人
月 上旨 二人
曲衆

御對面所

月 上及 指人 曲衆

月 沢 百

月 沢 友 指人 曲衆

月 沢 如 義 初 卷

月 沢 年 七 指人

御學院狀

桐葉多之

火傳

薄茶

菓子丸種

白三方長厨巾

料理 三汁 七菜

繪

うき作編
小川まき
山吹片餅
白髪大根
薄茶
本茶生粉
合梅

汁

あまき福入
まじりきり
樽 茸

小角
香のあ

急良漢丸
味留漬かの子
花 一 月
きんぶよ

俾
黄あ

胸の 鴨
よりの黄
花 一 月
短丹 牛房
持 芥

版

二

松
笥

松笥箱
甚き層ん
厚く海を
花 蝶 姑
赤廣人
髪 三 七

先
汁

福良報
ふきのと

大猪口

宿 黒 じ き 平
紅白ふくめ
砂 掃 落 ち け

乙

應化粉

鯉子附
黒くさく

まろき蓮

白 藤

高きさし

小指白粉

白赤官味
ぬるさる

女形赤
うそあ

指岩 茸
さるさく

茶梳

向清

小 綱

吸あ

切身車
桐子

中四

小後

白

桐

葛

花 生

水 湯

藥茶

以上

御製酒所
日次之百
然之

樽

薄茶

上方長曆中

料理二汁
西茶

公俸

菓子七種

糖

汁

小角
香
而

山崎村寺

白髪大根

梅岩茸

花

言

あまは

味

花

さん

二
評
養
西

此、身、鴨
宜、系、玉、子
樓、年
善、き、く

阪

芳、味、半、魚、ん

う、さ、糸、赤、魚

苔、丹、人、魚

梅、花、く、さ、め

葉、汁、小、草

散、り、て

汁

脊、切、魚、い

精
口

指、是、き、き

下、子、向、を

妙、極、養、根、子

小、菊、照、り、焼

之

吸
西

よ、の、魚

魚、く、ら、い

一、巻

四

魚、の、い、ご、う

善、味

四

河水 茶葉 以之

別版 古年

汗本登

黄深

以上

ひも作より

茶葉さび

茶葉さび

厚紙の毛

赤版

板の毛厚さ

茶葉

茶葉

御景園新河次郎

二汁の葉は方順

桐葉

鷹茶

葉子

鷹茶

本階 二階 向活 隔次 通二

門至枕子 四日 四日 河水 葉茶

上御書院 二汁 七葉 八

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

大分縣 大分市 大分

名村考(物) 一 西川為十市 一 中山之次

北村元七市 一 西 百十市 一 中尾荒次

荒木兼之助 一 上為末市 一

一 堀河為市代 一 一市 一

竹口之助 一

一 堀子鏡 一 角 一 一市 一 一市 一

一 十アノ市代 一 一市 一

一 堀子鏡 一 角 一 一市 一 一市 一

志雲之市代 一 堀河為市代 一

一 堀河為市代 一 一市 一

堀河為市代 一

一 堀河為市代 一 堀河為市代 一

堀河為市代 一 堀河為市代 一

一 市代 一 堀河為市代 一 一市 一

堀河為市代 一 堀河為市代 一

堀河為市代 一 堀河為市代 一

一 堀河為市代 一 堀河為市代 一

同十五日

名目を以て其先祖の指し對候
一冊古増候旨一本年内為指候
申作申

細川被中

日頃回書一通申付候旨
申作申

招奉大膳大吏

結後

立花左衛門

同以

沼井高解

右記白書院御中列座御座候旨

立花左衛門

丁亥海防御座候旨申付申候旨御座候旨

申奉左記白書院御中列座御座候旨

口書院

山口信清

申奉左記白書院御中列座御座候旨

右記白書院御中列座御座候旨

二月十日 高野伊勢守殿に侍候

并片右母に也

并片右母に也

了

海御殿

海軍少将 高野伊勢守殿に侍候
并片右母に也
了
海御殿

高野伊勢守殿に侍候

并片右母に也
了
海御殿

高野伊勢守殿に侍候

了

海御殿

了

高野伊勢守殿に侍候

二月十日

後

豊口龍事大司馬信之并車馬大司馬信之

比并信之河内守兼美濃守

也十二月十日

信之

十二月十七日伊豫守

河守

とん

浦安表の事

中河内守の事

及

十七日

十八日

第一

Handwritten text at the top of the right page.

Main body of handwritten text on the right page.

Handwritten text at the bottom of the right page.

Handwritten text at the bottom of the right page.

Handwritten text at the bottom of the right page.

Handwritten text at the top of the left page.

Main body of handwritten text on the left page.



